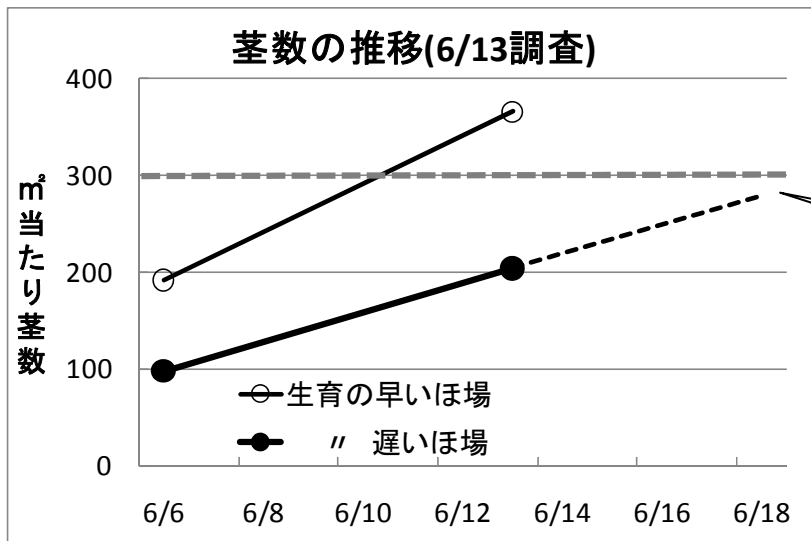


# 営農技術情報 『中干し特別号』

平成23年6月  
なのはな農業協同組合  
富山農林振興センター

植え傷みにより停滞していた水稻の生育は、おおむね回復し、分けつが急激に増加しています。遅くとも、18日頃には中干しを始めましょう。

また、1株当たり16～17本程度の茎数を確保したほ場では、早急に中干しを始めて下さい。



生育の遅れたほ場でも、6/18頃には十分な茎数が確保される見込み

## ★中干しのポイント

① 間断かん水や収穫前の排水の効率を高めるため、溝掘りは必ず行いましょう。

② 中干しの開始は、田植の1か月後で、以下の茎数を目安としましょう。

中干し開始時の茎数	
60株植	16～17本/株
70株植	14～15本/株

③ 出穂から20日間の湛水管理を確実に実施し、収穫時のコンバイン作業に支障がないよう、幼穂形成期までに田面を確実に固めましょう。

④ 中干しは「てんたかく」は6月末頃まで、「コシヒカリ」は7月10日頃までに終了しましょう。(幼穂形成期以降の強い田干しはしないでください)

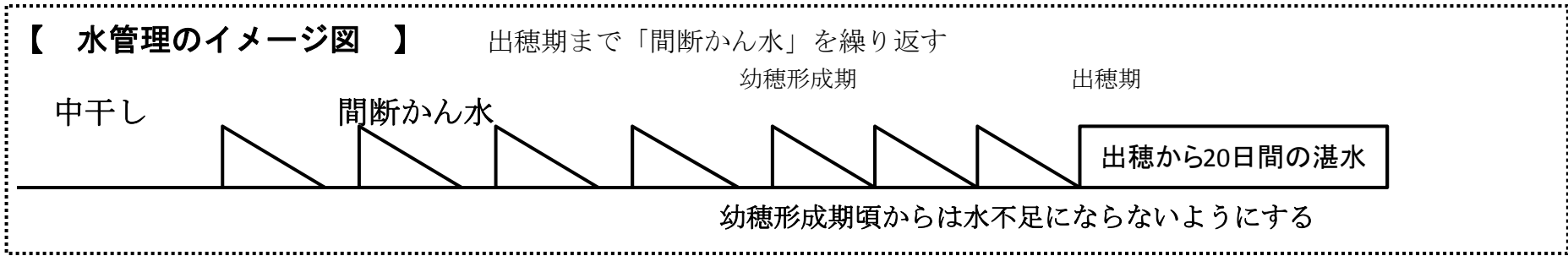
(裏面は中干し後の営農技術情報です。)

# 営農技術情報 (第4号)

＊中干し後の水管理は、「**間断かん水**」に切り替え、稲の活力を維持する。  
 ＊「**てんたかく**」の穂肥は、幼穂長1～2mmの時期に遅れずに施用する。  
 ＊畦畔や雑草地の草刈りを徹底し、斑点米カメムシ類の発生を抑える。

## 中干し後の水管理

～「**間断かん水**」で稲の活力を維持する～



## 「**てんたかく**」分施田の穂肥

～穂肥は幼穂長1～2mmの時期に遅れずに施用する～

### ○穂肥の施用時期及び穂肥量の目安

体系	回数	1回目	2回目
	施用時期	6月30日～7月2日頃 〔幼穂長1～2mm〕	
分施	肥料名	なのはな有機追肥又は追肥化成3号	
	施用量	10a当たり10～12kg	10a当たり12～13kg



### 〔穂肥施用時の注意点〕

- ・葉色が濃く(4.5以上)、茎数が多い(70株植えて28本/株以上、60株植えて33本/株以上)ほ場では、1回目の穂肥の施用は控えてください。
- ※基肥一発肥料のほ場でも幼穂形成期前に葉色が4.0を下回る場合は、なのはな有機追肥又は追肥化成3号で5kg/10a(チッソ成分で0.7kg/10a)程度の追肥を早急に行い、適正な葉色に誘導する。

## コシヒカリのつなぎ肥

～つなぎ肥は原則として施用しない～

- ・安易なつなぎ肥は過剰籾数と倒伏を招くので、原則として施用しないでください。
- ・Lps コシヒカリ1号などの一発(肥効調節型)肥料を施用しているほ場では、つなぎ肥は施用しないでください。

## 草刈りの徹底

- ・斑点米の発生防止のため、カメムシ類の発生源となる畦畔や水田周辺の雑草地の草刈りを徹底しましょう。
- ・刈取った草は、用排水路に流したり、燃やしたりしないでください。

草刈運動期間 7月1日～7月10日 一斉草刈日 7月2日(土)～3日(日)

生産履歴簿、GAPの記帳は速やかに行いましょう

(表面は中干し特別号となっています。)